

# 行政手続IT化・オープンデータ シェアリングエコノミーの事例と課題

庄司 昌彦 shoji@glocom.ac.jp  
国際大学GLOCOM 准教授・主任研究員

(一社) オープンナレッジファウンデーションジャパン 代表理事  
(一社) インターネットユーザー協会 理事

# 1. 行政手続IT化

## 1. 国と地方自治体の手続の連携

- Borger.dk (デンマーク)
- **CPR番号 (国民ID) 活用**
- バックオフィス連携による **ワンストップ化**の実現
- ユーザ中心設計 (**利用頻度の高い手続から重点実施**、ペルソナ・参加型デザイン等**民間手法の積極活用**)
- 紙による手続きを廃止

## 2. 業務の見直し

- 紙で提出した書類を行政が手入力したりスキャンしたりしている事例
  - 参議院議員通常選挙結果調
  - 政治資金収支報告書
- **オンライン申請・データ提出化**
- **業務見直し→使い易いオープンデータのスムーズな作成**



## 2. オープンデータ1.0（2012－15）の評価

- データカタログサイト「Data.go.jp」の整備
  - 2013年度に試行版開設、2014年度から本格運用
  - 掲載件数はG8諸國中6番目
- 二次利用促進ルール「政府標準利用規約（2.0版）」の整備
  - 政府の全府省に採用されたことで、日本政府のウェブサイト掲載コンテンツは全て「原則オープンデータ」となった
  - グローバルなデファクトスタンダード（Creative Commons License）互換
- 価値あるデータが不十分
  - 既公開データの利用条件緩和が大半。新規公開やタイムリーな公開、ビッグデータのAPI公開は進んでいない
- 大規模自治体中心に展開。中小自治体の自力推進には限界
  - 235自治体（16年8月）人口カバー率41%以上（16年3月）。ガイドラインはよく出来ているが、中小自治体は自力で推進する力が不足
  - 提供データの種類、提供方法、形式、用語などがバラバラ

**表1：先進国のカタログサイトと  
ライセンスの状況，データ掲載件数**

先進国 (カタログサイト)	ライセンス	掲載件数
アメリカ(data.gov)	オープン	184,558
カナダ(open.canada.ca)	オープン	120,974
イギリス(data.gov.uk)	オープン	37,702
ドイツ(govdata.de)	オープン	21,395
フランス(data.gouv.fr)	オープン	18,786
日本(data.go.jp)	オープン	17,105
イタリア(dati.gov.it)	オープン	10,347
ロシア(data.gov.ru)	オープン	8,586

日本は上位ではないが，多くの先進国とほぼ同水準のオープンデータの公開を達成

## 2.オープンデータ2.0への課題

### 1. データ活用を意識した業務・システムの再編成

- 政府司令塔の指示と支援の下、  
各府省がカタログを整備し、自動連携（例：米国・英国）
- 政府のデータベースは原則オープン化し重ね合わせ可能に  
（例：農地、空き家etc）
- 国と地方の情報公開・個人情報保護・公文書管理法（条例）を  
すりあわせていく

### 2. データ視点での業界構造改革

- データを販売してきた特殊法人・外郭団体等の実態調査と予断  
なき検討（官報、感染症、法人登記、交通、気象）
- 業界外ユーザのニーズを聞き検討する対話機会（例：英国）
- 例：交通、医療健康、環境、防災防犯、観光、子育て、文化...

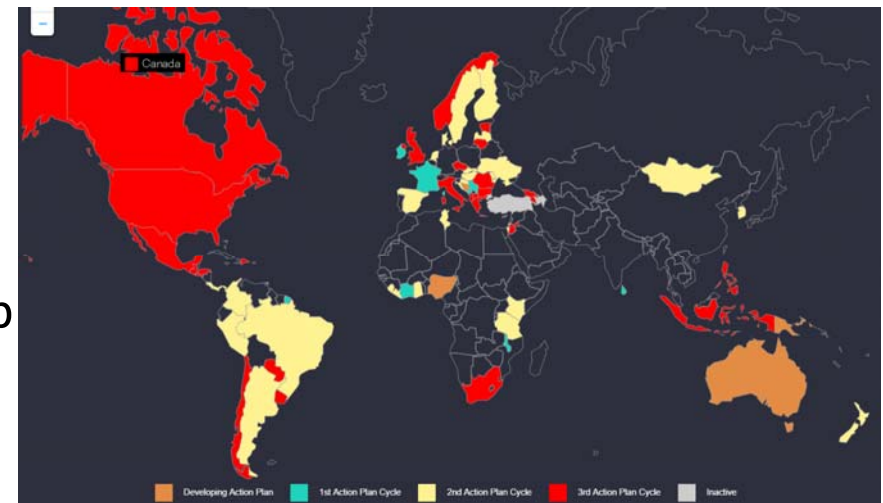
## 2. オープンデータ2.0への課題

### 3. 自治体の足並みを揃える

- 1700自治体の自発的到達は無理
- 政府主導で重要テーマを決め、自治体の取組みを支援する
- 公共インフラの稼働状況を把握し公開→シェアリングへ

### 4. 諸外国のオープンデータを活用

- オープンデータは世界的潮流
- 日本企業は諸外国のオープンデータ化を支援し、ソリューションを海外展開するべき
- 国際的枠組みに参画・推進し  
アジア諸国のデータ活用を支援・主導
- 例：Open Government Partnership  
(80カ国、G6が加盟)
- 例：欧米統計協定

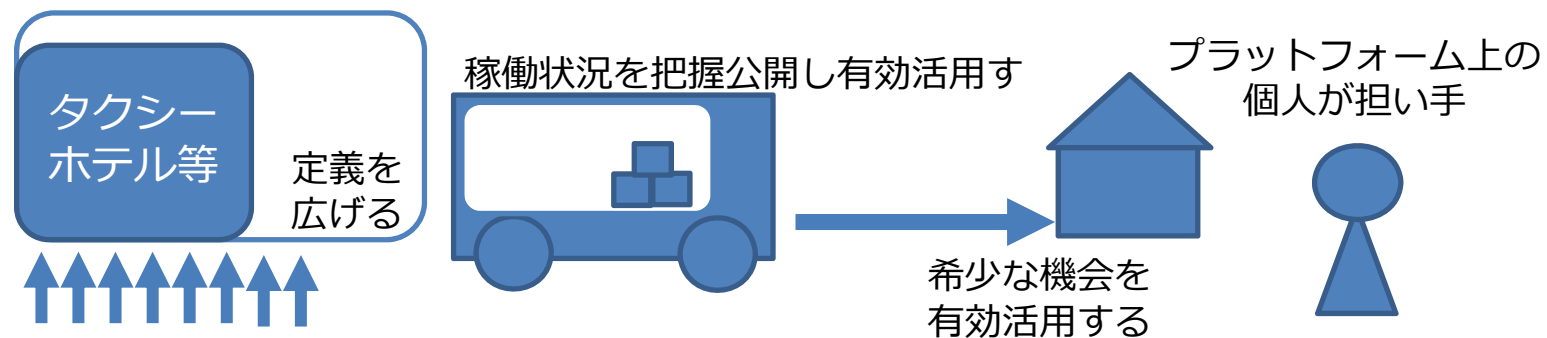


図：Open Government Partnership加盟国  
出典：OGPウェブサイトより

# 3. シェアリングエコノミー

## 情動的観点から見たシェアリングサービス

1. **Identify**: 定義を広げ、より細かく識別（区別）する。
2. **Monitor**: 稼働状況を把握する。
3. **Open/Share**: 情報活用のため公開・シェアする
4. **Match**: 多様なニーズと提供者をマッチングする
5. **Evaluate**: 双方向に評価する



モノの稼働率を高め、より多様なニーズを満たす  
**「オンデマンドエコノミー」**

# 3. シェアリングエコノミー

- **シェアリングシティ**
  - 対症療法的ではないビジョン・戦略性を持った推進
  - 例：ソウル・アムステルダム
- **ビジネスとしての成立が重要**
  - 社会課題解決志向で小さく始めることへの懸念  
(個別最適→横展開困難化)
  - 大都市とその周辺に住む**大卒以上・高収入層**が多い  
(Pew Research 2016)
  - 手数料ビジネスは多数の取引規模が必要。**都市部での展開、広域化・国際化支援が必要**
  - 地方での多角化を促す
- **悪質事業者の問題**
  - 共同規制の外の企業や個人
  - 取締りを進める
  - 良質なものに光を当てる
- **本業とする人が増えると出てくる労働問題への先行対策**
  - 安定就労が難しい人も働くことができ**安全網化の可能性**もある一方、労働関連の権利保障、社会保険・労災保険、退職金などがなく**不安定となるリスク**
  - ホストの声がプラットフォームの運営に届く仕組み（プラットフォームコーポラティビズム）
  - 実態調査・相談窓口等